

クセになる。八尾の人、まち、自然、うまいもん

# Yaomania

[ヤオマニア] Vol.12 2016年・冬号

## ひびけ! ヤオのオト

中学生の熱気で盛り上がりMAXの吹奏楽。  
宮川彬良の「八尾の曲」来春いよいよ初公演。  
こんな場所にも! ご近所のライブハウス。

ヤオマニアの横顔  
本間昭光さん(音楽プロデューサー・作曲家・編曲家)



Yaomania  
Vol.12 冬号 2015年12月16日発行 発行(社)八尾市観光協会

八尾市北本町2-1 ベントプラザ20号  
072-997-6226  
編集=140E 撮影=H Printed in Japan

親と子のはじめての えんげき体験 プリズムチャームプロダクションシリーズ



## 金鏡の中の秘密の池



「生の舞台の感動を子どもたちに伝えたい」  
という想いで、プリズムホールで一からつくるオリジナルの演劇公演

2月20日(土)

21日(日)

14:00開演

(13:30開場)

八尾プリズム小ホール  
(八尾市文化会館)

チケット(全席指定・税込)

大人 2,500円

こども(18歳以下) 1,000円

おやこペア 3,000円

(すべて当日増なし)

★八尾市内在住小学4年生は無料!

(要予約・要証明書)

★4人以上から団体割引あり

一般前売発売 12月20日(日)10:00~



吹奏楽のまち  
八尾  
魅力

八尾から吹奏楽の楽しさ発信中!

オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ

Osaka Shion Wind Orchestra (旧大阪市音楽団)

コンサート in 八尾

宮川彬良による“八尾に贈る新曲”世界初演!(八尾プリズムホール委嘱作品)



指揮: 海老原 光

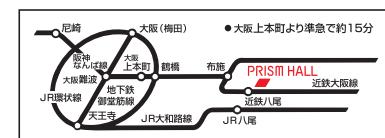
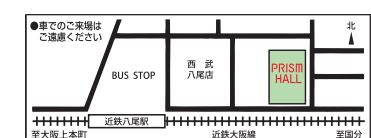
司会: 松田咏子

プログラム  
「威風堂々」第1番・歌劇「カルメン」から・宝島 他

チケットのお求め・お問合せは・プリズムホールチケットカウンター

072-924-9999

月曜日休館、祝祭日の場合は翌日  
9:00~19:00



3月19日(土)  
15:00開演  
(14:30開場)

八尾プリズムホール  
(八尾市文化会館)

チケット(全席指定・税込)  
一般 3,800円(当日500円増)  
大学生~25歳 2,000円  
小・中・高校生 1,000円  
(25歳以下は要証明書(学生証等))

一般前売発売 12月20日(日)10:00~

PRISM HALL  
八尾市文化会館

〒581-0803 大阪府八尾市光町2-40  
TEL.072-924-5111 FAX.072-924-5010  
<http://prismhall.jp/>  
Eメール [info@prismhall.jp](mailto:info@prismhall.jp)

近鉄八尾駅より歩いて5分・大阪難波から25分・大阪から35分の近さ

## 八尾市内中学校吹奏楽部の部長、全員集合!

### 成法中学校

久野木友香さん  
(トロンボーン)

「演奏のことで本気でぶつかりますが、それによって仲間ができるなと実感します」

●顧問のひとこと「プライベートがないほど忙しいのはしないですが、ステージで生徒と一緒に音楽を味わう喜びがあるから続けられると思います」(牧野純子先生)



### 八尾中学校

阿部沙也加さん  
(チューバ)

「舞台に上がり、いろいろな人に聞いてもらえるのがすごく嬉しい。吹奏楽を始めてよかったと思います」●顧問のひとこと「聴きに来てくださるお客様と音楽の楽しさを共有できたらと思います。そのために、ワクワクできる音楽をつくっていきたいです」(南條玲子先生)

### 久宝寺中学校

野村幸音さん  
(クラリネット)

「代々受け継がれる怖い話をします。部員全員でギターとか言いながら手をつなぎ、仲を深めていました」●顧問のひとこと「生徒と一緒に泣いたり笑ったりの日々、彼らと過ごす時間を大切にしたい。八尾は子どもも大人も地元愛が強いですね(笑)」(市ノ瀬夕佳里先生)

# 2000年代生まれの中学生だった!

### 龜井中学校

松田七海さん  
(ユーフォニアム)

「吹奏楽部のいいところは、音楽の授業がわかるので成績がよくなることです(笑)」

●顧問のひとこと「体力の低下という鬱いもありますが(笑)、自分の限界を作らず、吹奏楽の楽しさを子どもたちと分かち合いたいですね」(竹野史恵先生)

### 大正中学校

後藤和香さん  
(ホルン)

「みんなで創りあげていく大切さを学んでいます。他校とふれあい、音楽の知識が広がるものですね」●顧問のひとこと「指導者として迷うことが多く、怒ると雰囲気が悪くなり落ち込みます。それを乗り越え、本番でいい演奏ができると喜びを感じます」(山内綾乃先生)

### 曙川南中学校

岩本千夏さん(ホルン)  
宗安結さん(バーカッショhn)

「新入生歓迎会の『ウィ・アー・ザ・ワールド』の演奏を聞き、憧れて入部した人が何人もいます。夏は野外でマーチング練習をするので、どの運動部よりも真っ黒。私ら文化部なのに、と思います(笑)」●顧問のひとこと「教室では埋没してしまう子も、吹奏楽部では各自役割があり、存在感を発揮します。ランドセル以上、高校生未満の3年間の成長は著しいですよ。身近なところで彼らの演奏できる環境がもっとあればと思います。商店街パレードや駅前コンサートが実現できたらサイコー!」(木下琴葉先生)

### 演奏情報

●成法中学校 ↗072-991-2426

3.27(日)午前中 定期演奏会(同校体育館)

●大正中学校 ↗072-991-3919

3.20(日)午前中 定期演奏会(同校体育館)

●龍華中学校 ↗072-991-2934

3.27(日)13:30~ 定期演奏会(同校体育館)

●曙川南中学校 ↗072-994-1418

1.23(土)10:30~ ハートフルコンサート  
(刑部小学校)、

3.20(日)14:00~ 定期演奏会(同校体育館)、

3.27(日)15:00~ 京都さくらパレード

(寺町御池~寺町四条)

\*詳細については各学校に連絡を



### 教えて! 吹奏楽のこと

八尾プリズムホール・田口正夫さん

オーケストラは管弦楽器で構成され、主にクラシックを演奏するのに対し、吹奏楽は管楽器と打楽器のみで、低音を支えるために弦楽器のコントラバスが加えられるぐらいです。前者が花見の桜なら、後者はお花畠。キラキラした音がたくさんという感じです。吹奏楽の魅力は何といってもレパートリーの広さ。クラシックの名曲やジャズ、ポップスをはじめ、美空ひばりや嵐のメドレーなどあらゆる世代が知る曲を奏することができます。吹奏楽が幅広く受け入れられるのはそのせいかもしれません。これからもプリズムホールは「吹奏楽のまち八尾」の拠点として、八尾のまちづくりに貢献していきます。

11月23日、「八尾市中学校音楽祭」の1シーン。「聴かせる」「見せる」「ノセる」も中学生とは思えぬテクニシャンぶりでノリノリでした



# 吹奏張るのまち八尾

「頼まれたらどこでも演奏します!」  
「このコメントを何度も聞いたことがあります。情熱も笑顔も上達のスピードもケタはずれの中学生吹奏楽プレイヤーたちが、八尾にこれだけたくさんいたとは、驚きました。河内音頭もそうだけど、八尾は元気な音が似合つまちなんだなあ、と実感。



指揮者は大正中学校の山内綾乃先生。プリズムホールでの本番もバッチリ決まりました

各教室でのパート練習を覗くとメトロノームに合わせて演奏のテンポを確認している。大きな音を出せばいいというのではなく、音質のことも考えて。「ガンガン吹かずに力を抜いて」「吹く力を半分、聴く力を倍に」との先生のさりげない助言で、演奏が引き締まり、軽快な音が伸びていく。スポンジのように吸収してしまうのだ。中学生は、合奏の場面では何度も中断して音合わせが繰り返されたが、ようやく先生たちをうなづかせる演奏が完成。それは映画館で聞く臨場感たっぷりのファンファーレそのものだった。

取材・文=きむあつこ 写真=内池秀人



シンバルは忍耐の楽器、出番までの待ち姿勢も真剣そのもの



各パート練習のようす。音合わせの緊張感がこちらにもビシビシ伝わってくる



この一枚に中学生プレイヤーたちは奮起したりしげたり歓喜したり

# 学校でも、ホールでも、病院でも。八尾の吹奏楽、響きわたつてます。

取材・文:さきむあつこ  
写真:内池秀人

## 10年前に見事復活! 八尾高吹奏楽部のハードな日々。



音づくりのため、急遽エレキギターを担当する菊池将一くん。2か月でグングン上達した

一時廃部になつたが10年前、吹奏樂

好きの生徒が集まりOBも援助して復活。部員50人の大所帯になつた。「風になりたい」や「嵐メドレー」など明るい曲が大好きなプレイヤーたちだ。

3年生が引退したので、現在部員は38人(うち男子7人)。「よその高校でも1、2人が普通。7人でも女子に圧倒されています。(笑)」とは副部長の阪井大輝くん。ひと昔前、吹奏樂といえば男子中心のクラブだったはずだが、今は逆らしい。この日は土曜日で、9時から15時(途中で勉強の時間も!)というハードスケジュール。体づくりから行い、個人練習をすませたのち、全員で合奏する。「楽器の練習だけで

も1、2人が普通。7人でも女子に圧倒されています。(笑)」とは副部長の阪井大輝くん。ひと昔前、吹奏樂といえば男子中心のクラブだったはずだが、今は逆らしい。この日は土曜日で、9時から15時(途中で勉強の時間も!)というハードスケジュール。体づくりから行い、個人練習をすませたのち、全員で合奏する。「楽器の練習だけで

なく、ランニングや筋トレでインナーマッスルを強化することで、集中力と精神力を鍛えます。ひ弱な子がみるみる逞しくなりますね」(音楽部長・武田美優さん)。ノリは体育会系だ。

八尾高は敷地が府立高校中2番目に広いため、練習場所には事欠かない。

「夏、プール下の駐輪場が涼しくて、代々トランペッターの練習場所になっています。グラウンドに向いて吹くと音が遠くに飛ぶのですごく楽しい」(金管リーダー・三原彩夏さん)とは他校が羨む話だろう。「全員がやる気十分なので、刺激が一杯。みんなで頑張れる部活で嬉しい」。部長兼木管リーダーの嵐一永さんは熱く語った。



部員が奏でる楽器は、クラリネット、オーボエ、サックス、フルート、トランペット、トロンボーン、ホルン、ユーフォニアム、チューバ等、標準的な編成だ



取材日のメニューは体育会系+文化系とマッチョです。2年生部員で部訓“フィール ミュージック”心から心へ伝えられる音楽を奏でよう、を作成。めざせ金賞!



演奏曲を決めるためのミーティング。その日のうちに各自ユーチューブで演奏を聴き、多数決するとか。イマドキですね



顧問の石井俊広先生。「ふだん騒音でご迷惑をおかけしていますが、地域に貢献できるよう練習に励んでいます。八尾高の演奏会にぜひおいでください」

## 「ビーパシ」は吹奏楽のまちの頼れる先輩バンドだ。



指揮者を囲む楽団員。「音は前に出ていくので、従来の配置だと後列は前列の音が聽こえません。お互いが音を聞き合はず配置で演奏が変化するのではないかと」

八尾を拠点に活動する社会人バンドのうち、最もキャラが長い吹奏樂愛好会「バンドパシフィック(ビーパシ)」は昭和46年(1971)に結団。「昔マンモス校だった八尾中学校は、僕が卒業した翌年に3校に分裂(上之島中、桂中)したため、吹奏樂部の後輩がばらばらになつた。3校の部活をサポートするため、OBで吹奏樂愛好会を結成し、部員集めなどを手伝つていました」と代表の松田明雄さん。今は地域行事や施設での演奏活動が中心だ。メンバーや30人は高校生から60代後半と幅広く、大人になって始めた未経験者も歓迎。「娘の部活を見てやりたくないといったいう女性もいます。音楽を楽

しむ」というのがうちの趣旨ですから長く活動を続けていくなかで、譜面通りに音を出すだけでなく、作者の思いという調味料をふんだんに振りかけることが大切」と松田さんは言う。そこで今回はホールの特性を利用して、



**バンドパシフィック**  
☎090-4492-7319(細合さん)  
2016.9.4(日)14:00~ 結成45周年記念演奏会(プリズムホール)。入場無料。演奏の依頼は2か月前までに連絡を(費用は相談)

熱いアニキキャラの松田さんはアルトサックス担当。家族全員がビーパシのメンバーという吹奏樂一家だ

実験的な企画「ちょっと不思議な演奏会」(10月25日)をプリズムホールで開催。半円形ではなく、奏者が指揮者の周りをぐるっと囲んでいる。

「正解かどうかわかりませんが、演奏会はこういうもの、という常識から外れてみると(笑)」

途中、フォーメーションを往来通りにし、音の聴き比べも行われた。演奏の楽しさをお客さんと分かち合う試みこそ、「ビーパシの味」だと感じた。



部に代々伝わるベトーベンの肖像を持っているのが部長の岡侑葵(ゆうき)さん。礼儀正しくフレンドリーなプレイヤーたちの右端が藤田先生

り」と、吹奏樂部全盛の氣運とは線を画して活動している。確かに山肌が迫る緑の多いこの場所には弦楽器の優しい音のほうがよく似合う。この春に青木恵子先生(P7)からバトンタッチした藤田充子(みつき)先生が顧問に就任。女子9人、男子3人の精鋭チームで老人ホームから幼稚園、高校生主体の演奏会そして音楽コンクールと学外活動も多い。ゆずの「雨のち晴れや」も久石譲の「Summer」もココロに沁みます。

昭和39年(1964)春の卒業アルバムより。土居先生(左端)はその後、東大阪市立弥刀中学校に転勤し、そこでも同市の公立中学校唯一のギターマンドリン部を立ち上げた

高安山の麓にある八尾市立南高校中学校に音楽部が誕生したのは昭和33年(1958)頃のこと。ヨーラス主体だったが5年後にはマンドリンが手に。熱心な指導者である土居和子先生が始めたのだ。彼女が去つてからは空白期間もあつたが、龍華中学校の吹奏樂部などで顧問を務めた首藤えつ子先生(P7)が昭和59年(1984)から指導を始め、やがて全国大会にも進出。その後は「南高にギターマンドリンがあ

だけじやないよと  
**「南高」は静かに燃える。**

### 八尾高校

☎072-923-4261  
12.20(日) 吹奏樂のまち八尾アンサンブル・フェスティバル(八尾高ゆうかりホール)。出演予定:八尾中、亀井中、八尾翠翔高、八尾高、ゆうかりウインド・アンサンブル 4.3(日) 13:30~ 第8回定期演奏会(八尾プリズムホール)



練習室での演奏風景。楽しそう♪

ここにもあります高校吹奏樂部!

- 金光八尾中学校高等学校吹奏樂部
- 八尾翠翔高等学校吹奏樂部
- 山本高等学校吹奏樂部

吹奏樂部は病院の出張も。  
温かい音色で癒し効果抜群。

プリズムホールと八尾市立病院は市内の中学校吹奏樂部を招き、「病院ロビーコンサート」(年3回)を実施している。生徒たちが演奏する元気いっぱいの音楽で患者さんに楽しんでもらおうという試みだ。10月24日は八尾市立大正中学校吹奏樂部と大阪フィルハーモニー交響樂團クラリネット奏者、船隈慶さんとの共演もあり、その温かい音色に患者さんや家族、生徒の保護者が熱心に聴き入った。「日頃から校区の幼稚園や老人ホームなど、市民が吹奏樂を受け入れてくださるので、すごくありがとうございます。今日はプロ奏者との共演というすごい体験もでき、八尾の生徒は幸せですね」と大正中学校吹奏樂部顧問の山内綾乃先生。プロが奏でる憧れの音色に生徒たちの瞳はキラキラ、聴き入る患者さんはにっこに。吹奏樂が結ぶ素敵な光景でした。

恩師「いまけん」の弟子達が熱い思いを次世代につなぐ。

大正、龍華、八尾中学校の吹奏樂部顧問を務めた今中健司先生が2009年に急逝、関係者や生徒たちが悲しみに包まれた。八尾の中学校吹奏樂の礎を築いた一人である今中先生を偲び、翌年に各校のOBやゆかりのある人たちが「いまけんバンド」を結成、精力的に活動中だ。「中学時代(大正中)に、今中先生と出会い、今は自分も子どもたちと一緒に吹奏樂を楽しんでいます」と竹野史恵先生(亀井中吹奏樂部顧問)はこのバンド(写真左)でパーカッションを務めている。



上は2001年6月23日、西宮にて。左から今中先生、天童よしみ、首藤先生(P7)

### いまけんバンド

☎090-7888-0379(細川さん)  
1.24(日)13:30~ 第13回常磐会短期大学吹奏樂部定期演奏会(クレオ大阪南)にて友情出演。入場無料

「あの人」が  
ヤオのオトを作曲するん  
ですって!?

「音がよかつたら率先して手をたたく、ダメだったら不機嫌にふんぞり返るとか(笑)、聴衆ももっと能動的に楽しもう」と説く



いい演奏を聴けば、自然に  
「やってみたい」になります。  
**首藤えつ子さん**  
(元中学校音楽教師)



教師が口で言うより、伸び盛りの生徒が素敵な演奏を聴いたら自然に「僕らもやりたい！」となりますよ。私は彼らに「そのためには何が必要？」と自分で考えさせ、練習だけは真剣に接してきました。他ではアナアアです（笑）。子どもは勝手に頑張るものだし、練習に励んでいたら他の生徒にも伝わります。龍華や南高安、曙川南……病気がちの体も、彼らが舞台で輝くのを見るといつの間にか治りました。手探りの私を応援してくれた先輩の先生方にも感謝しています。

**地域全体が応援しているから、  
子どもはうれしいんです。**  
**山村若静和さん**  
(山村流上方舞師範)



龍華小学校時代に「鼓笛隊」に選ばれた時は鼻高々でした。運動会向けの30人ほどのチームで、ピアニカのがちよと地味でしたが（笑）。龍華中学校ではバレーボール部で音楽から離れていたけれど、吹奏楽部は八尾で一番でしたね。同級生でホルン奏者の友達もすごく熱心だったし、伯父も定年後に部の指導を手伝っていました。今は曙川南ですか？ 龍華中、頑張ってほしいな。小学生の鼓笛隊は今もあります。昔みたいにもっと盛り上がりがあればいいですね。

宮川彬良さんといえば、大ヒット曲「マッケンサンバⅡ」の作曲家として有名であり、オオサカ・シオン・ウイングド・オーケストラ（旧大阪市音楽団）の音楽監督や数々の舞台音楽などを手がける音づくりのスーパー・プロフェッショナルであるが、このほどブリズムホールからの依頼で「八尾に贈る新曲」を作曲することになった。

宮川さんは「肝心なことは曲が出来てから……」と少し遠慮しながらも、次のように話してくれた。

「八尾って、何か元気を感じさせるまちなんですね。吹奏楽のまち八尾」というのは素敵な言葉ですが、吹奏樂にとどまらない豊かな音楽性を長い歴史の中でもつけてきているんです。ホールで行う“音楽祭”というと、なん

となく借り物的なところがあるので、私はそこに“生きたもの”を注入した。河内音頭だつてそれで生きながらえてきたでしよう？」  
そして、こう付け加えてくれた。  
「世の中には、音楽に託してしか言えないことがあります。それはある種の叫びのようなもの。聴けば思わず手が伸びそうな、体が反応しそうな曲をつくりたいし、作れると思ふんですよ」  
初演は3月19日プリズムホールにて。

# わたしの記憶に残る ヤオの才ト風景

# わたしの記憶に残る ヤオの才ト風景

曙川南中学校の吹奏楽部でアルトサックスを吹いていました。曙南は周りが田んぼで近所から苦情が出ず、練習がしやすかった。当時は情熱的な首藤先生が顧問で「たくさん の本番を経験する」「上手い人の演奏を聞く」を徹底していました。その縁で淀川工高の演奏会に招待され、進学することができました。淀工では丸谷明夫先生が顧問で、厳しかったけどやりがいがありました。素敵な2人の師匠がいてラッキーでしたが、八尾にはそんな出会いがありますね。

最後の最後にマンドリンを  
教えることができてよかったです。  
**青木恵子さん**  
(元中学校音楽教諭)



私自身が京都で高校・大学時代にマンドリンを弾いていました。中学校の教師になってからいつかは顧問として教えたいと思っていたので、20年ぐらいずっと「私、できますよ」(笑)とアピールしていましたが、中学校の部活にはなかなかマンドリンはありませんでした。定年前の6年間、南高安中学校で念願の顧問ができたことはとても幸せでした。マンドリンは吹奏楽に比べると音が出しやすいし、自宅でも練習できるので、できればずっと続けていってほしいと思います。

八尾出身で、最近は“里帰り”した  
ら必ず元でライブを行うシンガーソ  
ングライターの広沢タダシさん。この  
秋、八尾の先輩でリスペクトしている  
音楽プロデューサーでキーボード奏者  
の本間昭光さん（P13）に声をかけ、  
プリズムホールでの対談イベント（テ  
ーマは「八尾の音楽フェスを実現した  
い」と、八尾市指定文化財である旧  
植田家住宅でのデュオコンサートが実  
現した。両日とも超満員。これまで旧  
植田家住宅では年1回、ジャズやクラ  
シックのコンサートを開催していたが、  
J・ポップは初めて。伸びのある声や楽  
器の音が、年月を経た土の壁にほどよ

ンサート本番のMC。本間「いや～、  
田家ホントにいいですね、最高で  
」。広沢「本間さん、さっきもそれお  
しゃってましたよ(場内笑)」



表紙「旧植田家住宅のコンサート」

R八尾駅のほど近くにある旧植田家住宅は、江戸時代から残る建物です。訪れた日は、主屋で行われるコンサートのある日で、リハーサルが行われていました。趣きのある立派な梁が走る建物の中を見学しながら、部屋を移動する度に反響で違った感じに聴こえる音に面白さを感じながら、時間が過ぎていきます。夜が暗くなり開演が近づいて、外も場内も賑やかになってきました。いよいよコンサートの始まりです。

すがい・ひでかず 1977年明石市出身。日本人の原風景や人びとの営みに映る郷愁をテーマに描く。著書に『私だけのふるさと』(岩波書店)、『うなぎのうちゃん大冒険』(福音館書店)等。毎日新聞朝刊(兵庫版)にも連載をしている。

旧植田家住宅の職員から説明を聴く。広沢「近所にいましたがここは初めてです」。本間「僕が八尾にいた頃はここに人がまだ住んでいました」

近広場歌は「広げたりえし」といふ言でし  
く吸收されて、美しい残響を出演者を  
含めて全員が楽しんだ。今後の多彩な  
コンサートにも期待したい。



近鉄八尾駅の噴水広場で毎週月曜夜に歌っているリクオくんは高校2年。コンサートで1曲を披露。「広沢さんからお声がけしてもらつた時にはびっくりして何も言えませんでした」



「性格はええ加減、店は良い加減」  
言葉どおりのママのごきげん空間。  
**クレンショウ** [桜ヶ丘]

「あたりまえやけど、オーナーさんの雰囲気がそのお店の空気をつくる。だからここは、歌うワタシも聴くお客さんも楽しいとこ

ろなんやないかな」  
ライブの幕間に、ジャズボーカリストのNARUMIさんはこう話した。  
「楽器は全然」というオーナーの井上あき子さんだが、20代から30代にかけてヒップホップやストリート系のダンスで馳らし、西梅田に「ブルーノート大阪」があった当時はバックダンサーの経験もある。「とにかく好き」というジャズやソウルの豊かな音楽知識は、古今のミュージシャンの名前が数々出てくるところからも窺える。聞き慣れない店名は、70年代に米国で放映されていた有名音楽番組のダンサーたちが、プライベートに集まっていたクラブに敬意を払ってのものだ。

今でこそ週末や土日はライブハウスと化しているが、最初から音のお店をめざした訳ではなく、「私もお酒が好きやから、女性がひとりで安心して呑める会員制のお店を」と12年前に開いたのがきっかけ。今年10月、ドラムセットやキーボードを置くスペースを確保するために現在の桜ヶ丘に移転した。

ライブでは、好きなスタンダードジャズを企画することが多いが、先々はダンスやDJイベントも催したいという。お店の電話も看板もないで、「ピンポンを押してください」とのことだ。

●八尾市桜ヶ丘2-76 井上第一ビル203 ☎なし  
営業時間不定(大体19:00~1:00) 不定休  
ライブチャージは出演アーティストによりチップ制~3,500円



「同じ続けていくなら、自分がオモロイと思うことをやらなね。スポーツバーみたいなこともいいかな」と井上さん。最近までイチローをサッカー選手と思っていたふしが(笑)



3ヶ月に1度ライブをするNARUMIさん。「楽しいママの店で唄えるのが楽しい!」

町家カフェで軽くライブなど。



[KUKURU]でウクレレを教えている桜井じゅんさんと店主の足高氏による、ウクレ&カボンのランチライブ

このページを取り・執筆した足高健一郎さんが店主を務めるカフェ「KUKURU」は、町家を改装した開放的な空間で、楽器の教室やミニライブなどが頻繁に開かれている。足高さんはアリオ八尾のレッドコートで開かれる音楽＆ものづくりイベント「Wao! Yeo! MyDo!」のプロデューサーでもあり、ネットワークの広さが持ち味。カレーとチャイとケーキが美味しいだけではないのである。

●八尾市東本町3-2-29 ☎072-989-7364  
9:00~19:00 月曜・第3火曜休

「デビュー半年前のコブクロがウチの転換期になりました」  
**Sugar Babe** [北本町]

オーナーの井出口正実さんが20年前にレストランバーとしてオープン。店名はイギリスのThe Rubettesのヒット曲「Sugar Baby Love」から取った。開店当時はライブ会場にする予定はなかったが、5年目ぐらいに当時のお客さんから「ちょっとここで演らして」と声を掛けられたゴスペルイベントが契機になった。

「人と人のご縁でつないでいただいたらで」と謙遜するが、自ら音楽イベントなどに積極的に参加し、フォークシンガーの加川良とも関わりを得るなど、コブクロ以降は70年代にフォークで活躍した大塚まさじや元憂歌団の木村充揮、上田正樹、元B.B.クイーンズの近藤房之助など鉢巻たる広沢タダシのライブの時はいつも超満員になる



40年を共にする奥さんの真佐子さんとは、「今日のライブ的にいえば、『阿吽』の仲かな」とか。ちなみにこの日は、お坊さんが演奏する三昧線説法ライブ

プレイヤーたちが同店のステージに立っている。最近では八尾出身のシンガーソングライター、広沢タダシもその一人だ。

機材や店内の設えは、その都度手を加えた。「音漏れを防ぐために入口を二重扉にしたり、なかなか大変でしたが、渝しんでくれる環境を整えるのは、気持ちのええもんです」。現在はプロのイベントのほか、月イチのペースで自由参加の「フリーライブ」を開催。ギターが大好きなオーバー65の団塊世代の参加も多い。

●八尾市北本町2-5-1 ☎072-995-1200  
18:00~0:00 日曜休(ライブorフリーライブ開催日は営業) ライブチャージ3,500円~  
フリーライブ1,500円(2ドリンク1フード付)



## 人がいて音があれば、ライブハウスになる店。

八尾の音を盛り上げるティーンズの熱気には脱帽だが、大人だって街なかでいい音を楽しんでいる。

登場するのは、音好き人間がつくったひとクセある店ばかり。

「ライブハウス」とまでは言えないけれど、音楽とお酒で客をのせ、ユルませてくれる顔がある。

取材・文=足高健一郎(KUKURU店主) 写真=内池秀人

のステージになり、輝ける場所になれば」と嶋津さん。店名には、「舞台で輝く女優」の意が込められている。



作家である嶋津さん。「隠れ家のように落ち着いてもらいたい」と、今の場所に決めた

●八尾市陽光園  
1-10-15  
☎072-915-4040  
19:00~3:00  
(金・土曜・祝前日は~5:00) 無休

「カウンターの中も外もステージ」  
八尾の音を盛り上げる「舞台人」。  
**Cafe Bar Donna** [陽光園]

オーナーの嶋津亮太さんは大学時代に演劇の魅力に憑かれ、以来脚本、小説、ラジオDJなどで活動している。「表現者として続けながら生活の基盤を作るため」、パートナーの朋子さんとオープンさせたのは6年前。2人とも北摂の出身だったが、共通の知人がいる八尾に通ううち、「八尾のひとの人柄、街並みに魅力を感じ」、こ

の地で開店することに。当初はライブや演奏を目的とした訳ではなかったが、BGMの選曲に魅かれた常連客の中から「こんな楽器できるねん」「歌えるで」という人がそこかしこから現れ、いつしか月1回のペースでミニライブを演るようになった。

この日も地元シンガーのナンバアキコさんとピアノ＆ボーカルの徳上小夜子さん、元プロベーシストの東祐司さんらの即席ユニットによる即興ライブが開演。腕は言わずもがな。

「来てくれる人、関わってくださる人たち



コーヒーとケーキでも  
気軽にライブを楽しめる。  
**moon café** [陽光園]

漂う紫煙とお酒、ソウルやボサノバが似合うのが「Donna」なら、ここは珈琲とケーキ、ライトジャズのような空間だ。「表現に携わろうとする人が、自活の途をつくれるように」と「Donna」のオーナー嶋津亮太さんがその近くに昨年オープンさせた。店長の上垣克也さんは芸人志望。「Donna」にお客として通ううちにその自由な空気に惹かれ、嶋津さんに「働きたい」と直訴。「それなら、少し違う業態のお店で」とカフェ

の店長を任せた。

「日々忙しいなかで、月イチのライブは楽しみ」と上垣さんが語るのが、定期的に開催している「絆LIVE」。バイオリン奏者・氏橋良江さんとキーボード奏者によるインストゥルメンタルは、一度は聴いたことのあるような、優しい曲ばかり。「飲物とケーキで嬉しい時間を過ごせます。お客様がお友達を連れてきてくださるので、音楽とお店を知ってもらえる良い機会だと思います」と上垣さん。今後はお客様を迎える「迎人」の腕を磨くのだと。

●八尾市陽光園2-6-32 ☎072-924-3515  
5:00~0:00 水曜休 絆LIVE1,040円

## ヤオのオトSPECIAL

# シルキーホールの30年。

1980年代後半、バンド・ブームが到来し、街なかにライブハウスがあちこち出現したが、今や現存しているもののほうが多い。

同じ頃、昭和61年(1986)に八尾市本町で誕生した「元ふとん縫製工場のライブハウス」がまもなく30周年を迎える。

大都市でも、駅前でも、行政が建てた訳でもない民間のハコが、なぜこれだけ長く続いているだろうか。

取材・文=中島 淳



1988

昭和63年9月4日の産経新聞に掲載された写真(八尾市提供)。ファッショングアーティストも80年代後半そのもの。こんな時代でした



2015

同じ場所で、大阪府立布施高校生主体の「寿司屋」(写真左)ほか各バンドのメンバー。左の写真の人たちは、お父さんお母さん世代よりちょっと上かな?

### ふとん縫製工場の曲がり角。

「以前はね、ふとんの縫製工場やったんです。蚊帳とともに作っていましたよ」

オーナーの梅崎貴史さんから聞いて腑に落ちた。昭和40年代ぐらいまでは久宝寺の顕彰寺からすぐ近くの大信寺まで「お達夜市」が軒を連ね、市外からも大勢の買い物客が来ていた。人の行き来が盛んな寺内町ではふとんの需要がさぞかしあったことであろう。

しかし、八尾でも急速に進む宅地化の波は避けられなかった。この地にとって大きな転機は近鉄八尾駅の移転高架化と西武八尾店の開業(1979~81年)だった。駅はアミリーロードの入り口から東へ移動し、商店街などのふとん屋でふとんを買う従来の生活スタイルも変わりつつあった。

同じ頃、転入人口が上昇中の八尾では多くの若者が参加して「第1回八

尾まつり」が昭和53年(1978)に開かれた。これに刺激を受けて梅崎さんは大学在学中から音響の仕事にのめり込むようになる。「(以前の)フェスティ

バルホールの音響チーフを長く務めた堀江正さん(1936~2013)の下でいろいろ勉強させてもらいました。ホル2階に飾られているオープン当時の写真。左から藤井裕(b・故人)、島田和夫(ds・故人)、石田長生(g・故人)、梅崎さん、木村充輝(vo)

した。父からは、「どうせ縫製工場継ぐ気ないんやろし」と言われていました。(笑)」

PAのレンタルなどの仕事の傍ら、気に入ったミュージシャンのライブをよく観に行った。その時に出会ったのが、松村正秀とゴンザレス三上のギターデュオ(後のゴンチチ)である。



かつては縫製工場であったことを忘れない。ライブハウスとしては異色のマーク



ゴンチチ「シルキーホールではオープニングを含めて3回ほどライブしました。よくこんなハコを立ち上げたあと、妻いのひと言です」。1.9(土)には大阪のいづみホールでライブがある

「ピークのときは年間300日ぐらいライブで埋まりました。みなスマホを持つように楽器を持っていた頃で、リンダリンダが鳴り止まない(笑)」

音楽プロデューサーの本間昭光さん(P13)も関西学院大学の学生時代に当初ここでアルバイトをしていた。

### 「ええ受け入れ先でいたい」

ブームは過去の話だが、最近のシルキーホールはライブハウスの枠を超えて多様な使われ方をしている。

本誌でも度々取り上げた八尾市の「子ども音頭とり講座」は1階(1年目)と3階(2年目)で同時に講義が行われ、八尾本場河内音頭連盟の師匠たちがほぼマンツーマンで指導している。

また、これまでに世界53カ国でツアーを行っている和太鼓集団「倭」のメンバーが指導する和太鼓教室も週に2回、シルキーホールで行われる。イギリスやアメリカで「倭」の公演を観て感動した学生が来日し、英会話学校で働きながらここでの教室に通うほどだ。「文化をつくり上げるのは、お客様も含めて集まった人たちの力です。私はええ受け入れ先でありますね。それを引き継いでいきたい」と梅崎さん。



和太鼓教室は火曜日と木曜日。18時半から小学生、20時から社会人を指導する。20代から60代、かつては縫製工場であったことを忘れない。ライブハウスとしては異色のマーク

和太鼓集団「倭」の玉井碧さん。「和太鼓は完全防音でなかったら無理です。ここはいろんな意味で融通が利くし、みんなもリラックスして取り組んでいて、とても使いやすいですね」。1.9(土)に奈良県文化会館で新春公演



上／確かに観る側からもちょうどいい高さで、一体感を得られるステージだ 左下／照明の長田さん(右)とステージの永井さん。長田さんは高校の頃からこの3階でダンスの練習をしていた。永井さんは自分のバンドでドラムスを担当 右下／これが梅崎さんの30年変わらぬ指定席だ

ステージでは、東大阪のSTUDIO 525が主催する高校生バンドのライブが始まっている。ここでの主催ライブはもう30回を重ね、10年ほどのお付き合いだ。スタジオの星出幸多さん「今回は高校生たちがライブをしたいと言ってきたのでここを紹介したんです。やっぱり一般の人が観に来るステージで演奏するとテンションが全然違う。ライブっていいですねと言ってくれます。東大阪にはこんな場所ありませんから」。

バンドの交代時はステージの転換に時間がかかる。その「間、を持たせるMCがマイクを握ると、ざわついた場が和んで次第にトークに引き込まれる。

「ここでのステージは話すのにも高さがちょうどいいんですよ。他ではMCの間は照明さんも音響さんも休み時間ですが、シルキーはアドリブやってもバッと対応してくれる」(MCの龍之介さん)

ステージの転換は永井優さん、照明は長田結香さん。「家族でやってるホールだから働きやすいし、歴代のスタッフも機会があったら集まっています。優しい職場ですね」(長田さん)

ホール後ろの音響ブースでは梅崎さんがミキサーを調整しながら、高校生ロッカーたちを楽しそうに見つめていた。

### シルキーホール

●八尾市本町5-1-41 ☎072-991-4437

季節のピンポイントレッスン  
大晦日は「紅白」ならぬ  
河内音頭で佳い新年を。  
もう14回目です！

## 河内音頭 カウントダウンライブ2015

●12月31日(木)18:00~  
@近鉄八尾駅北側「噴水広場」  
●八尾河内音頭まつり振興会 072-994-5741



年越しのカウントダウンといえば花火やコンサートが定番だが、八尾では河内音頭で新年を迎えるのが恒例になつていて（当然です）。夕暮れからライブが始まると、どこからともなくワサ

では河内音頭で新年を迎えるのが恒例になつていて（当然です）。夕暮れからラ

イブが始まると、どこからともなくワサ

では



水雨で道が濡れているけれど、そんなことはお構いなさない

ワサと音頭好きが集まり、踊りの輪が自然に形成される。踊り目的の人は最初から軽快な服装。買い物ついでの参加者は防寒着で着ぶくれしているが、軽やかなステップはさすが八尾人。もっとすごいのはここにも揃いの浴衣集団が存在する。心の内は「私らにしつかりついていや」ではなからうか。

八尾本場河内音頭連盟の主催イベントとあって、総勢18名の音頭取りがとつておきの持ちネタを詠む。夏の盆踊りでもこんな大勢のナマ歌を一度に聴けるのは珍しく、新年にふさわしい豪華版だ。しょっぱなは八尾の子ども音頭大使が出演するが、今年はなんと9人の児童たちが元気いっぱいの節回しを披露する。

「イヤコラセ〜ドッコイセ」の高揚感と筋肉痛を携えながら、初詣に向かうのもよし。元旦のお屠蘇が疲れた体に、きっとじんわり染みわたることだろう。

「危除けの意味も込めて、明るく元気に詠むことを心がけています」と連盟代表の美野家肇師匠。除夜の鐘がつき終わる新年の0時すぎにライブも終了。

「イヤコラセ〜ドッコイセ」の高揚感と筋肉痛を携えながら、初詣に向かうのもよし。元旦のお屠蘇が疲れた体に、きっとじんわり染みわたることだろう。

文=きむあつこ



力 シトリー&ウエスタンの聖地といわれる、米テネシー州の名を冠した音楽バーがカントリーファンに親しまれている。店主は中川嘉輝さん。

いたんです。会社を早期退職後、やりた

いことをしようと1996年に音楽バー

トリーにどっぷりはまり、趣味で聴いて

50~60代の方が多いですね。ふと、音

楽の授業で習ったフォスターの「おお

サンナ」を思い出した。

を始めました。お客様は40代後半から

いたんです。会社を早期退職後、やりた

いことをしようと1996年に音楽バー

トリーにどっぷりはまり、趣味で聴いて

50~60代の方が多いですね。ふと、音

楽の授業で習ったフォスターの「おお

# パン屋は街の入り口だ⑧

## 植松町 Une Noix

パンの一角？ 本格ブーランジュリーが地元の話題。

奈良街道の家並みが残るJR八尾駅南側に、パリジェンヌならぬ植松ジエヌ！が喜びそうなパン屋さんを発見。その名も「Une Noix」（仏語でクルミの意）。パリのパン屋をお手本にインテリアをスタイリッシュにまとめ、流れるBGMはフランスのラジオ番組。フランスパンやクロワッサンの場合はすべてフランス産の材料（小麦、バター、塩、水）でつくるという徹底ぶりだ。店主の佐藤愛さんは学生時代、パン屋でアルバイトをしたのがパン職人のきっかけとなつた。

「パンづくりは面白いと思い始めた頃、フランス人職人の『ビゴの店』のフランスパンに出会い、そのおいしさに感動。パン職人になることを決意したんです。大学卒業後は八尾や東大阪の手作りパン店でアルバイトをしたのがパン職人のきっかけとなつた。

安心材料でつくった[dogビスケット]は人が食べてもおいしいと評判

1.6(水)～1.31(日) 写生作品展示(ギャラリー)  
 1.6(水)～3.6(日) なぞ、なぞ、昔の道具  
 1.17(日) 子どものためのお茶会  
 1.31(日) 連続講座「火(ひ)①」  
 2.7(日) 旧家で楽しむ落語会  
 2.28(日) 連続講座「火(ひ)②」  
 ☎072-992-5311

このような店になりました

トレンディな商品だけでなく、三色パンのような懐かしいアイテムも人気だ。「定番のカスタード、チョコクリーム、ジャムではなく、うちのは粒あん、栗あん、芋あんのほっこりづくり」など。

年配の方に受けています。取材時は国産小麦「キタノカオリ」を使ったパンの、まさに試作中で「程よいもっちり感が日本人に好まれるので、菓子パンのように少しずつ使っています。地産地消は体によく、農業の振興につながるため、食パンなどでも国産小麦を増やしていくつもり」と研究に余念がない。日仏いいとこ取りのスタンスだ。パンは生きもの、緊張と喜びの連続ですと

佐藤さんの表情は輝いている。

### Une Noix

●八尾市植松町5-7-12  
 ☎072-970-5522  
 6:30～18:00  
 木曜休

商品は80種以上。「迷う喜びも感じてください(笑)。陳列にないライ麦パンとか、別注もお受けしています」



「クロワッサン」203円。フランスの高級バターをふんだんに使った逸品。パイ生地の層がキレイに形成され、丁寧なつくりはさすがというか



「モンブラン」257円。洋酒の利いたマロンクリーム、生クリーム、カスタードとパイ生地の組み合わせは文句なし。ほっぷが落ちます



「燻製ハムのカスクルート」235円。八尾の人気フレンチ店[タブリエ]自家製のハムとマスターDピクルスでパゲットの味を堪能。売り切れ必須



「鳴門金時」246円。食べた瞬間、和風スイートポテトのような味わいと、さっくりしたパイ生地の香ばしさが口の中に広がる。ボリューム満点



●Yaomania  
第13号(春号)は  
2月下旬発行

# 時代は ますます、 若ごぼう

発行=一般社団法人八尾市観光協会  
編集=株式会社140B  
表紙絵=須飼秀和  
デザイン=山崎慎太郎  
印刷=図書印刷株式会社  
※記事の情報は  
2015年11月30日時点のものです。

## ヤオマニアの心ふるわす冬～春カレンダー

12.31(木)

河内音頭カウントダウンライブ  
●近鉄八尾駅前噴水広場 18:00～



1.7(木)・8(金) 八日戎  
●八尾天満宮(本町4丁目)

1月中旬 とんど焼き  
●市内神社各所

1月下旬～2月上旬 スイセン

●玉祖神社(神立5丁目)  
→大阪平野が見渡せる傾斜地のスイセンが見頃

2.3(水) 鬼追い式  
●八尾天満宮、許麻神社

2.27(土) 第8回ロボットフェア2016

●アリオ八尾レッドコート  
10:30～ロボット展示体験コーナー  
13:00～ロボットコンテスト一般大会  
→テーマは「陣取り合戦」市内のものづくり企業や高専、大学がチーム戦で陣地の獲得を競い合う。

●八尾市立歴史民俗資料館

12.19(土)  
資料館歴史講座「池島・福万寺遺跡における農業景観のうつりかわり」  
→講師 井上智博(大阪府文化財センター)

12.20(日)

こどもおもちゃ教室

「こどもしめなわづくり」

~1.18(月)

展示「高安千塚古墳群  
～岩本文一コレクションの紹介～」

1.22(金)～3.21(祝・月)

展示「高安の花づくり～栽培から流通まで～」

1.31(日)

資料館歴史講座「中世の集村化と惣墓」  
→講師 小林義孝(大阪府教育委員会  
文化財保護課専門員)

2.28(日)

資料館歴史講座「大和川をめぐる社会」  
→講師 小谷利明館長

☎072-941-3601

●しおんじやま古墳学習館

1.9(土)  
しおんじやま学び場(講演会)  
河内地帯～河内平野の遺跡を知る～  
→講師 柴田妃三光(弥生文化博物館)  
☎072-943-3810

※会場は下のMAPでお確かめください。  
お問い合わせ先が特にないものは八尾市観光協会まで☎072-997-6226

